

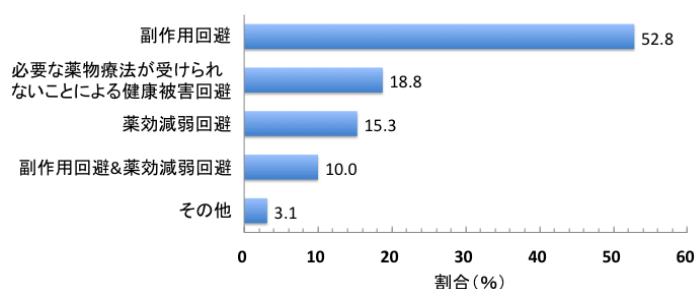
薬局薬剤師が薬学的介入より得られる医療経済的効果の検討

愛媛県の病院は日本病院薬剤師会の提唱するプレアボイド報告に貢献しているが、保険薬局では行われておらず病院との連携もほとんど行われていない。そこで、保険薬局における薬学的介入事例を把握し、相互に情報共有することを目的にインターネット上にデータベースを構築し、愛媛県内における医薬品による患者の健康被害を回避した事例を集積するシステムを作成した。2014年度の愛媛県内の保険薬局8施設からの報告事例を解析した結果、報告件数は500件（うち135件は残薬解消介入事例）であった。そのうち、副作用回避が169件、必要な薬物療法が受けられないことによる健康被害回避が60件、薬効減弱回避が49件などであった。医療経済効果の推算是、約2,000万円（うち約80万円が残薬解消介入事例）であった。さらに、プレアボイド件数1件あたり平均62,300円、疑義照会1件あたり10,437円、処方せん1枚あたり388円の医療経済効果があることが推算され、このことから我が国で保険薬局薬剤師が患者の健康被害を回避することにより年間約2,960億円の医療経済効果があることが推算された。これらの結果は、2015年度の愛媛県内の保険薬局24施設を対象とした解析においても同様の傾向であった。最も多かった事例は、医薬品による副作用回避であり、薬学的介入を行うことが、患者の健康被害の未然回避に大いに貢献していると考えられた。また、不要な薬剤の中止を行った事例も多くあり、保険薬局薬剤師がポリファーマシーの軽減に貢献していることが明らかとなった。

図1. 薬学的介入による医療経済効果の推算

介入分類	保険薬局薬剤師	
	件数	医療経済効果 (円)
#1 重大な副作用の回避、重篤化の回避	0	0
#2 経静脈的な抗菌薬療法への介入	0	0
#3 がん化学療法への介入	18	2,016,000
#4 薬物相互作用回避	ハイリスク薬	2 168,000
	その他	0 0
#5 腎機能に応じた投与量推奨	ハイリスク薬	0 0
	その他	2 112,000
#6 注射薬配合変化防止	ハイリスク薬	0 0
	その他	0 0
#7 薬歴の確認	ハイリスク薬	2 168,000
	その他	9 504,000
#8 その他の薬物療法提案	ハイリスク薬	32 2,688,000
	その他	255 14,280,000
#9 モニタリング推奨	0	0
#10 次回受診日までの処方日数不足の回避	45	0
#11 残薬解消介入	135	776,660
合計	500	20,712,660

図2. 薬学的介入のアウトカム



1. 田坂祐一, 田中亮裕ほか, 医療薬学, 2014, 40(4), 208-214.
2. Tasaka Y, Yasunaga D et al. Int J Clin Pharm. 2016;38(2):321-9.
3. Yasunaga D, Tasaka Y et al. J Pharm Policy Pract. 2016 ; 10 : 2.
4. 安永大輝, 薬事新報, 2016, 2931, 9-14.